



県経済界・マスコミ界の重鎮。宇摩郡土居村(現、四国中央市)出身。代々庄屋を勤めた旧家の山中家の嫡男に生まれる。慶應義塾大学を卒業後、伊予三島銀行専務となり、大正12(1923)年、県会議員に選ばれ昭和3(1928)年まで在職した。また、宇摩郡民の悲願であった銅山川分水に私財を投じて尽力、住友四阪島煙害問題では代表の一人として住友鉱山との賠償交渉にあたった。この間、自身の商店を経営する傍ら芸備銀行(現、広島銀行)や愛媛県農工銀行の監査役、伊予鉄道電気会社(現、伊予鉄道株式会社)役員などを歴任した。

戦後は、愛媛新聞社社長、南海放送社長及び会長として県の経済界、マスコミ界を牽引し、愛媛県工業倶楽部会長を9年間務め、愛媛大学工学部の松山移転と新居浜高等専門学校の開校、国立四国がんセンターの設置などに尽力した。

スポーツマンとしても有名で、剣道は、達人の域に達し、全日本剣道連盟の顧問、県剣道連盟会長を務めたほか、県体育協会会長、四国ゴルフ連盟理事長でもあった。

略歴

明治30(1897)年3月5日	宇摩郡土居村入野に生まれる。
大正10(1921)年	慶應義塾大学理財科を卒業。伊予三島銀行専務となる。
大正12(1923)年	県会議員に選ばれる。
昭和2(1927)年	県会議員に再選される。
昭和15(1940)年	剣道の天覧試合に出場
昭和17(1942)年	第21回衆議院議員総選挙に当選
昭和19(1944)年	愛媛県商工会議所会頭となる。
昭和20(1945)年	愛媛新聞社社長に就任
昭和26(1951)年	愛媛県剣道連盟会長に就任
昭和31(1956)年	南海放送社長に就任
昭和41(1966)年	南海放送会長に就任
昭和42(1967)年	勲三等瑞宝章受章
昭和43(1968)年	愛媛県教育文化賞、愛媛新聞社賞受賞
昭和44(1969)年	愛媛県功労賞受賞
昭和53(1978)年	勲三等旭日中綬章受章
昭和61(1986)年2月2日	88歳で永眠

〈関連図書〉

- ・『えひめ 人 その風土』 愛媛放送株式会社 1986年
- ・『愛媛県人名大事典』 愛媛新聞社 1987年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年

〈主な収蔵資料〉…(P207, 54)